

栃木県埋蔵文化財センターだより

CONTENTS

- 平成19年度栃木県内の発掘調査速報
- ・市町教育委員会が実施した発掘調査から
奥戸遺跡（足利市）・川崎古墳（那珂川町）
高原山黒曜石原産地遺跡（矢板市）・笠塚古墳（宇都宮市）
田中道光山遺跡（下野市）・下犬塚遺跡（小山市）

- ・埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から
国指定史跡 吾妻古墳（栃木市・壬生町）
山の神II遺跡（さくら市）
千駄塚浅間遺跡・粟宮宮内遺跡（小山市）
- 栃木県の平成19年度発掘調査一覧
- 栃木県の平成19年度発掘調査動向
- 「巡回展栃木の遺跡」－最近の発掘調査の成果から－

2008
7月
やまかいど

発行 平成20年7月30日
栃木県教育委員会
宇都宮市築田1-1-20
TEL 028-623-3425
編集 (財) とちぎ生涯学習文化財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474
TEL 0285-44-8441
FAX 0285-44-8445
URL <http://www.maibun.or.jp>



I 平成19年度栃木県内の発掘調査速報

市町教育委員会が実施した発掘調査から

1 奥戸遺跡 埋葬された中世の馬（足利市 一覧の⑤）

奥戸遺跡は、足利市の中心部から南東に約7km、南は渡良瀬川、北は尾名川にはさまれた標高20m～24mほどの低地帯にあります。遺跡の範囲は、渡良瀬川左岸の河川敷内にまでおよび、増水のたびに水際の遺構が少しづつ削られてしまうため、平成18年度より記録保存のための発掘調査を行っています。これまでに縄文時代中期後半の竪穴住居跡、中世の土坑、井戸跡などが確認されました。

平成19年度の発掘調査で特に注目されたものに、中世の馬の埋葬遺構があります。この遺構は、表土が既に失われ1.7m×1.5mの楕円形の穴が露出していました。最初は井戸跡と考えていましたが、掘り進めていくうちに頭を南向きにして、足を西側に向かって横たえた状態の馬一頭分の骨がほぼ完全な形で出土しました。馬の骨は、頭骨のあごの部分、肋骨、前足、後足が良好に残っていました。遺構の深さは85cmで、埋土の中から曲物2点、かわらけ1点、石臼の破片2点が出土しました。この馬が埋葬された年代は、かわらけの型式から戦国時代頃と考えられます。

（足利市教育委員会 0284-20-2230）



奥戸遺跡の埋葬された中世の馬

2 川崎古墳 (那珂川町 一覧の⑯)

川崎古墳は、那珂川の支流久那川と武茂川の合流地点に位置します。6世紀後半以降に築造された那須地方最後の前方後円墳で全長は50mあり、県内最大となる全長8.2mの石室をもつことで著名でした。町教委では史跡の保護と活用を図るため、発掘調査を行いました。

調査の結果、①古墳の周囲に幅15mの堀があり、周堀を含め全長80m、全幅50mと推定されること。②削り出しによる長方形土壇上に前方後円墳が築かれること。③前方部にも石室が存在することなどがわかりました。特に注目されるのが、前方部の石室です。築かれた場所から後円部の石室よりも新しい時期のものと考えられ、さらに盗掘の形跡が認められませんでした。また、出土遺物には須恵器甕の破片や土師器片があります。

那須地域では、7世紀後半に渡来人の影響を受けた特殊な歴史と文化を背景に現在の栃木県を二分する古代那須国が形成されていました。その中枢をこの地域の豪族が担っていたことが今回の調査で明らかとなりました。

(那珂川町教育委員会 生涯学習課 0287-92-2897)



くびれ部の様子



新たに発見された前方部石室

3 高原山黒曜石原産地遺跡群 剣ヶ峯地区遺跡 (矢板市 一覧の⑰)

高原山黒曜石原産地遺跡群剣ヶ峯地区遺跡は、矢板市の北端部に聳える剣ヶ峯(1,530m)付近から発見された後期旧石器時代(約17,000年前)の遺跡です。遺跡は、黒曜石という石器をつくるのに適した石材がとれる所にあり、その場所で石器を作る作業も行っていたことから、黒曜石原産地遺跡という呼び名で呼ばれています。このような遺跡で大規模な遺跡は、全国で3例目と貴重なことから、矢板市教育委員会が国・県の補助を得て、どのような性格の遺跡なのかを調べながら、遺跡を保存するための調査を5ヵ年計画で行っています。19年度の調査が2年目の調査です。

調査では、表土から約30cmの深さから黒曜石原石や割った破片が2箇所まとめて出土しました。また、その下から黒曜石原石を採取するために掘ったと考えられる穴も見つかっています。穴の中からは多量の黒曜石のかけらと作りかけの石器などが多量に出土しています。長さが約6cmの槍を使ったと考えられる石器も出土していることから、後期旧石器時代の後半期と考えています。このような穴は、周辺にも分布していると考えられることから、この時期に黒曜石採掘を行っている可能性が高いことがわかりました。

(矢板市教育委員会 0287-43-6218)



SKI 3層 黒曜石集石出土状態



SKI 堀り上り状況

4 箕塚古墳(宇都宮市 一覧の⑦)

この古墳は、宇都宮市東谷町に所在し、田川の東側に築かれた5世紀中ごろの大型の前方後円墳です。平成19年度は第2次調査で、前方部側の墳丘の状況と周溝の調査を行いました。調査の結果、次の5点が確認できました。①昨年度同様、前方部側でも三段に築かれ、葺石をもつことがわかりました。②前方部第2段平坦面において、埴輪の樹立状態を確認しました。③周溝調査の結果、周溝底近くから榛名山を噴源とするFA(火山灰)が確認されたほか、中層付近で浅間山を噴源とする浅間B軽石層が確認できました。④前方部側でも二重に周溝が廻っていることが確認できました。その結果、総長が190mを超えると想定され、小山市琵琶塚古墳や摩利支天塚古墳に匹敵する規模であることがわかりました。⑤箕塚古墳の南側に隣接する鶴舞塚古墳との関係を把握するために、2本のトレントを設定し調査を行った結果、箕塚古墳の二重周溝が鶴舞塚古墳の周溝により途切れている状況が確認できました。

以上のことから、本墳は県内で初めて築かれた本格的な大型前方後円墳であり、畿内大和政権と非常に結びつきの強い古墳であることがわかりました。

(宇都宮市教育委員会 028-632-2764)



T-9 葺石確認状況



T-10 墓輪樹立状況

5 田中道光山遺跡(下野市 一覧の⑨)

この遺跡は、平成19年度に下野市南河内庁舎北側の区画整理事業の際に発見されました。調査により、古墳時代前期(約1,700年前)の方墳が確認されました。これらの古墳は、台地の縁辺に南北に並ぶように造られており、古墳のところに立つと東に広がる低地が一望できます。さらにその東には、同じ時代の同じような形の墓が複数造られた三王山地区を見渡すことができます。

今回の調査では、5基の方墳(1辺20m級2基、15m級1基、10m級2基)が確認されました。

特に1号墳の周溝の南辺中央部には土坑状の穴が掘られ、その穴の中に2個の土師器壺が置かれたような状態で出土しました。さらに周溝の東辺中央付近では溝が途中まで埋まった時に墳丘から転げ落ちたような状態で、赤く彩色された壺が出土しました。

この墓域は北に伸びているようで、約30年前の新4号国道の工事に伴い調査された薬師寺南遺跡でも同時期の同様の墓が発見されています。また、平成11年度にもこの南側約500mの地点で、同様の方墳が1基確認されています。平成20年度も付近の調査が予定されており、古墳の数はさらに増えると考えられます。

(下野市教育委員会 0285-52-1120)



1・2・4号墳確認状況



1号墳土器出土状況

6 下犬塚遺跡 (小山市 一覧の⑨)

下犬塚遺跡は、西仁連川の右岸台地上に位置しています。昭和60年度に、古墳時代前期の環濠集落が調査されました。南関東や東海・北陸地方の影響を受けた土器が多く出土し、重要な遺跡として注目されました。平成6年度から土地区画整理事業に伴う発掘調査が実施され、古墳時代～奈良時代の集落や中世の土壘などが調査されました。下犬塚土壘は小山氏と結城氏との領地の境に位置しています。その帰属により、小山氏の勢力範囲を特定する好資料となるため詳細な検討が求められます。平成19年度は、古墳時代前期と後期～末期の集落跡、中世の土壘などの調査を行いました。今回の調査では古墳時代前期の竪穴住居跡5軒とV字状の溝跡が見つかりました。それらの中で、特徴のある竪穴住居跡について紹介します。4号竪穴住居跡は一辺約3mのほぼ正方形で、炉は直径約60cmで床面を掘り込んだ後に粘土を貼って作られていました。このような炉は、埼玉県や南関東地方で類例が知られています。そのほか、南関東系の土器や茨城県に広く分布が認められる十王台式土器などが出土しています。

(小山市教育委員会文化振興課 0285-22-9669)



十王台式の出土状況



4号竪穴住居跡

埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から

7 国指定史跡 吾妻古墳 (栃木市・壬生町 一覧の⑯)

吾妻古墳は、栃木市と壬生町の境にあります。その石室が、江戸時代から「吾妻の岩屋」として絵図で紹介され、また、栃木県最大の前方後円墳であることから、昭和45年には国の史跡に指定されました。前方後円墳が二段に重ねられたような形に作られていますが、墳丘の第一段部分が低く幅広であるため、墳丘の認定が不明確でした。栃木県教育委員会は、この古墳の状況を明らかにするための確認調査を計画し、平成19年度は前方部側を中心として確認調査を行いました。その結果、第一段にも土が積み上げられていることが判明し、第一段部分は低くても墳丘の一部であることが確認できました。墳丘第二段目の裾から埴輪が集中して出土しており、埴輪が並んでいたと考えられます。大多数は円筒埴輪ですが、形象埴輪も少数出土しています。古墳の周囲をめぐる堀の外側には、第二の堀や土壘があることが珍しくありませんが、前方部の外側には存在しないことも確認されました。平成20年度以降は、後円部側の状況、現在は埋もれている前方部先端の石室の残存状況の確認調査を行う予定です。

(埋蔵文化財センター 0285-44-8441)



周堀確認状況



墳丘第一段盛土確認状況

8 山の神Ⅱ遺跡 (さくら市 一覧の④)

山の神Ⅱ遺跡の発掘調査は県の経営体育成基盤整備事業（圃場整備事業）に先だって、平成19年4月から始まりました。

遺跡はさくら市金枝にあり、国道293号線の「道の駅きつれがわ」から北東へ3kmに位置します。すぐ東側には江川が流れています、川の下流約2kmには、同じく平成19年度に発掘調査された森後遺跡があります。

今回の発掘調査では、約25軒の堅穴住居跡のほかに、中世の堀跡1条と方形堅穴1基が発見されました。堅穴住居跡のうち1軒は古墳時代、24軒は奈良・平安時代のものです。これらは江川が流れる低地面よりも2mほど高い場所につくられています。集落を高い場所につくり、低地では稻作をしていましたことが推定されます。また、堅穴住居跡にはカマドが作られていますが、これらの多くは住居が使われなくなった時に完全に壊されていました。また、住居跡からは少量の土器が発見されただけなので、おそらく引っ越しをしたときに、家財道具をきれいに持ち去ったものと思われます。なお、山の神Ⅱ遺跡は平成20年度も引き続き調査を実施しています。

(埋蔵文化財センター 0285-44-8441)



航空写真（北上空から）



古墳時代の堅穴住居跡

9 千駄塚浅間遺跡・粟宮宮内遺跡 (小山市 一覧の④)

両遺跡とも小山市粟宮地内にあります。平成19年度に小山環状線建設に先だって、千駄塚浅間遺跡を2,795m²、粟宮宮内遺跡を4,705m²発掘調査しました。遺跡がある思川東岸の台地上は、千駄塚古墳・乙女不動原窯跡・鷺城跡など、各時代の著名な遺跡があります。調査の結果、千駄塚浅間遺跡からは、古墳時代の堅穴住居跡14軒、平安時代の堅穴住居跡1軒、ひむろ氷室と考えられる古代の円形有段遺構2基、中世の薬研堀（断面V字形の堀）2条などが発見されました。薬研堀のうち大きなもの（写真上）は、幅が約6m、深さ4mで、平成3・4年度に小山市教育委員会が調査で確認した中世館跡との関連が考えられます。遺物は、古墳時代中期の須恵器・土師器・石製ぼうすいしゃ・纺錘車・土錘・かわらけなどが出土しました。

粟宮宮内遺跡（写真下）からは、古墳時代の堅穴住居跡16軒、平安時代の堅穴住居跡1軒、古墳時代の溝跡1条、中世の薬研堀3条、近世の土坑などが発見されました。遺物は、須恵器・土師器・灰釉陶器・刀子・鉄鎌・内耳土器・常滑大甕などが出土しました。

(埋蔵文化財センター 0285-44-8441)

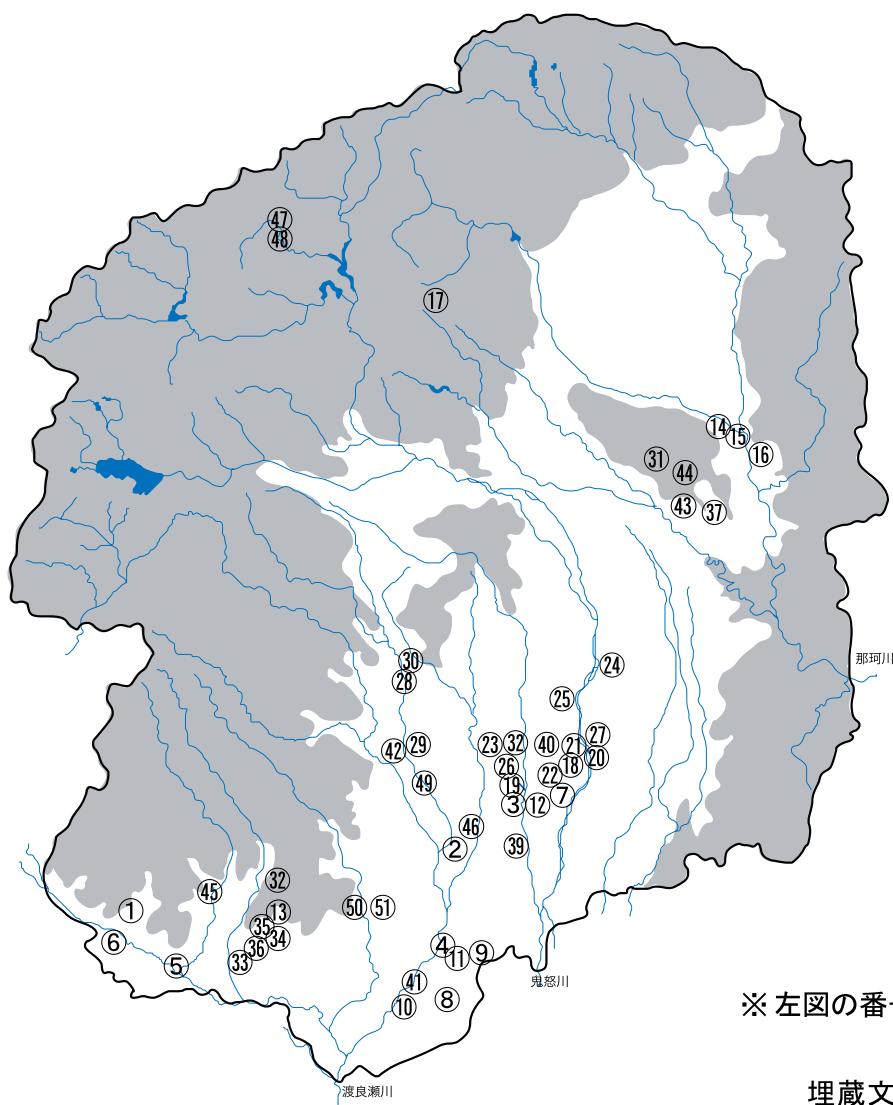


千駄塚浅間遺跡薬研堀（北東から）



粟宮宮内遺跡全景（南西から）

■ 栃木県の平成19年度発掘調査一覧



※ 左図の番号は下表の番号に一致します。

埋蔵文化財センターは、国や県などが行う道路建設や圃場整備事業などの、公共工事に伴う記録保存のための発掘調査を実施しています。

また、市町教育委員会は市町が行う公共事業や民間開発に伴う記録保存のための発掘調査を実施しています。

さらに、県・市町教育委員会は史跡整備のためや、遺跡の内容を明らかにするための発掘調査も行っています。県・市町教育委員会以外の機関による、遺跡の内容を明らかにするための学術調査なども行われています。

◎ 市町教育委員会が実施した発掘調査

● 史跡整備のための発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
①	権崎寺跡	足利市	中世
②	下野国分寺跡	下野市	古代
③	上神主・茂原官衙遺跡	上三川町	古代
④	小山氏城跡 祇園城跡	小山市	中世

● 遺跡の内容を明らかにするための発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
⑤	奥戸遺跡	足利市	縄文他
⑥	新宿遺跡	足利市	縄文～古墳
⑦	笹塚古墳	宇都宮市	古墳
⑧	五料遺跡	小山市	古墳～平安
⑨	下大塚遺跡・下大塚土壙	小山市	縄文～平安・中世
⑩	亀田遺跡	小山市	縄文～平安
⑪	神鳥谷遺跡	小山市	中世

番号	遺跡名	市町名	主な時代
⑫	上神主・茂原官衙遺跡	上三川町	奈良～平安
⑬	唐沢山城跡	佐野市	中世
⑭	淨法寺み城遺跡	那珂川町	奈良他
⑮	新屋敷古墳	那珂川町	古墳
⑯	川崎古墳	那珂川町	古墳
⑰	高原山黒曜石原産地 遺跡群	矢板市	旧石器

●記録保存のための発掘調査（本調査を実施した遺跡の一覧。確認調査は除外した）

番号	遺跡名	市町名	主な時代
⑯	砂田姥沼遺跡	宇都宮市	古墳
⑰	大日塚古墳	宇都宮市	古墳
⑱	根本西台古墳群	宇都宮市	古墳
⑲	東山道跡	宇都宮市	奈良他
⑳	中島笛塚遺跡	宇都宮市	古墳～平安
㉑	若松原南遺跡	宇都宮市	古墳
㉒	野高谷薬師堂遺跡	宇都宮市	中世
㉓	さるやま城古墳群・さるやま城遺跡	宇都宮市	古墳・中世
㉔	宮の内遺跡	宇都宮市	古墳～古代
㉕	下西原遺跡	宇都宮市	縄文・奈良
㉖	明神前遺跡	鹿沼市	縄文

番号	遺跡名	市町名	主な時代
㉗	藤江東原古墳群	鹿沼市	古墳
㉘	鹿沼城跡	鹿沼市	中世
㉙	裏山遺跡	さくら市	近世
㉚	傾城塚遺跡	佐野市	古墳～平安
㉛	新若宮遺跡	佐野市	古墳～平安
㉜	北の山遺跡	佐野市	縄文～中世
㉝	角折遺跡	佐野市	奈良～平安
㉞	ゴロノミヤ遺跡	佐野市	縄文・古墳～平安
㉟	新道平遺跡	那須烏山市	縄文
㉟	市ノ塚遺跡	二宮町	縄文・古墳・中世
㉞	田中道光山遺跡	下野市	古墳

◎埋蔵文化財センターが実施した発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
㉚	砂田遺跡・西刑部 西原遺跡	宇都宮市	縄文～近世
㉛	千駄塚浅間遺跡・ 栗宮宮内遺跡	小山市	古墳～中世
㉜	青龍渕遺跡・皇宮前塚	鹿沼市	奈良～近世
㉝	森後遺跡	さくら市	古墳～中世
㉞	山の神Ⅱ遺跡	さくら市	奈良～平安

番号	遺跡名	市町名	主な時代
㉚	四十八塚古墳群	佐野市	古墳
㉛	吾妻古墳	栃木市・ 壬生町	古墳
㉜	川戸釜八幡遺跡	日光市	縄文
㉝	仲内遺跡	日光市	縄文
㉞	谷向遺跡	壬生町	古墳～平安

◎その他の機関が実施した内容を明らかにするための発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代	調査主体者
㉚	白岩第7号墳	大平町	古墳	古墳勉強会
㉛	城内町古墳群	栃木市	古墳	國學院大學栃木短期大学



砂田遺跡 37 区 SI-21 土器出土状態（宇都宮市 一覧の④⓪）

砂田遺跡は古墳時代から平安時代の大規模なムラの跡です。この写真は古墳時代中期末頃（約1,500年前）の竪穴住居跡から土器が出土した様子です。煮炊きするための甕などが貯蔵用の穴のまわりからたくさん発見されました。



湯西川ダム関連遺跡 仲内遺跡 調査風景（日光市一覧の④⓪）

平成19年度の仲内遺跡の発掘調査では縄文時代中期末頃（約4,000年前）の竪穴住居跡1軒、土坑16基、平安時代以降の土坑7基を調査しました。この写真は縄文時代の遺物が含まれる土層を掘り下げている作業風景です。

■ 栃木県の平成19年度発掘調査動向

平成19年度の発掘調査動向について述べます。国及び県等から委託され埋蔵文化財センターが実施した本発掘調査件数は減少し、整理・報告書作成作業にシフトしています。このことは大規模開発関係の発掘調査が終息に向かっていることを意味します。市町の場合も確認調査に比して、本調査件数は約半分となっていますが、保存を目的とした範囲確認調査が増加しています。また、その他の団体による学術調査が2遺跡で実施されました。それらの成果の一部をみていきます。

国指定史跡関係では、県が、今後の保存・活用のための基礎データを得ることを目的として、前方後円墳が2段に重ねられた形に作られ、墳丘の認定が不明確であった吾妻古墳の調査を、埋蔵文化財センターに委託・実施しました。その結果、第1段目も盛り土がなされた墳丘の一部であることが確認されました。市町では、史跡整備のための発掘調査が、かばさきでら 横崎寺跡(足利市)、小山氏城跡^{おんじょう}園城跡(小山市)、下野国分寺跡(下野市)、かみこうぬし上神主・茂原官衙跡(上三川町)で実施され、多大な成果をあげました。検出された遺構は史跡整備に活かすことができるか否か今後検討される予定です。

今後の国指定史跡を受けるための発掘調査が、高原山黒曜石原産地遺跡群(矢板市)で行われ採掘坑跡等が確認されました。また唐沢山城跡(佐野市)でも実施されました。

保存を目的として新屋敷古墳(那珂川町)が発掘調査され、6世紀末～7世紀にかけての古墳であることが判明しました。国指定史跡・那須官衙跡に続く、前の時期の遺跡であり、当時の那須地方の様相を知る上で貴重な古墳となりました。

記録保存の発掘調査が実施された遺跡のうち、新道平遺跡(那須烏山市)で、縄文時代中期では県内屈指の集落跡と袋状土坑、及び最大幅12mの東山道跡の遺構が確認されました。これにより、那須烏山市を通過する東山道跡については、ほぼその全容を解明することができました。

(埋蔵文化財センター調査部長 川原由典)

■ 巡回展 栃木の遺跡 一最近の発掘調査の成果から一

栃木県では、毎年多くの発掘調査が実施されています。その調査成果をできるだけ早く、県民の皆様にご覧いただくために、毎年「巡回展 栃木の遺跡」を開催しております。今年も県南・県央・県北の県立施設3館において、下記の日程で開催いたします。ぜひご来場いただき、祖先の暮らしを振り返ってみてください。

開催館のご案内

栃木県立しづつけ風土記の丘資料館

平成20年4月19日(土)～6月15日(日)
下野市国分寺993 TEL 0285-44-5049

栃木県立博物館

平成20年7月19日(土)～8月31日(日)
宇都宮市睦町2-2 TEL 028-634-1611
◎展示解説 8月3日 13:30～15:00
定員30名

栃木県立なす風土記の丘資料館

平成21年1月31日(土)～3月15日(日)
展示会場は小川館になります。
那珂川町小川3789 TEL 0287-96-3366
◎オープニングイベント
1月31日(土) 10:00～
◎遺跡発表会・風土記の丘成果発表会
2月28日(土) 10:00～
定員60名 参加費無料

利用案内(3館共通)

開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜日(祝日・休日を除く)
祝日・振替休日の翌日

主な展示遺跡

旧石器時代

中根遺跡(茂木町) 30,000年～16,000年前の石器が出土。

旧石器時代～縄文時代

仁王地遺跡(市貝町) 26,000年前～8,500年前の集落跡。

縄文時代

新道平遺跡(那須烏山市) 5,000年前～4,500年前の集落跡。

古墳時代

田中道光山遺跡(下野市) 1,700年前の古墳(方墳)5基。

森後遺跡(さくら市) 1,700年前の土器と玉類が出土。

中島笹塚遺跡(宇都宮市) 1,550年前の古墳出土の須恵器甕。

笹塚古墳(宇都宮市) 栃木県最初の前方後円墳を確認。

淨法寺み城遺跡(那珂川町) 1,400年前の集落跡出土の土器。

平安時代

北原遺跡(那須烏山市) 1,100年前の集落跡。鉄製品が出土。

下野薬師寺跡(下野市) 穴から儀式に使われた土器が出土。

中世

神鳥谷曲輪跡(小山市) 鎌倉時代の小山氏の館跡を確認。

青龍渕遺跡(鹿沼市) 鎌倉時代の堀跡からかわらけが出土。

下陰遺跡(真岡市) 梵字と輪宝を描いたかわらけが出土。

埋蔵文化財センターの見学・体験学習・職場体験等のお申し込みは

ホームページ <http://www.maibun.or.jp> をご覧のうえ普及事業担当まで TEL 0285-44-8441